

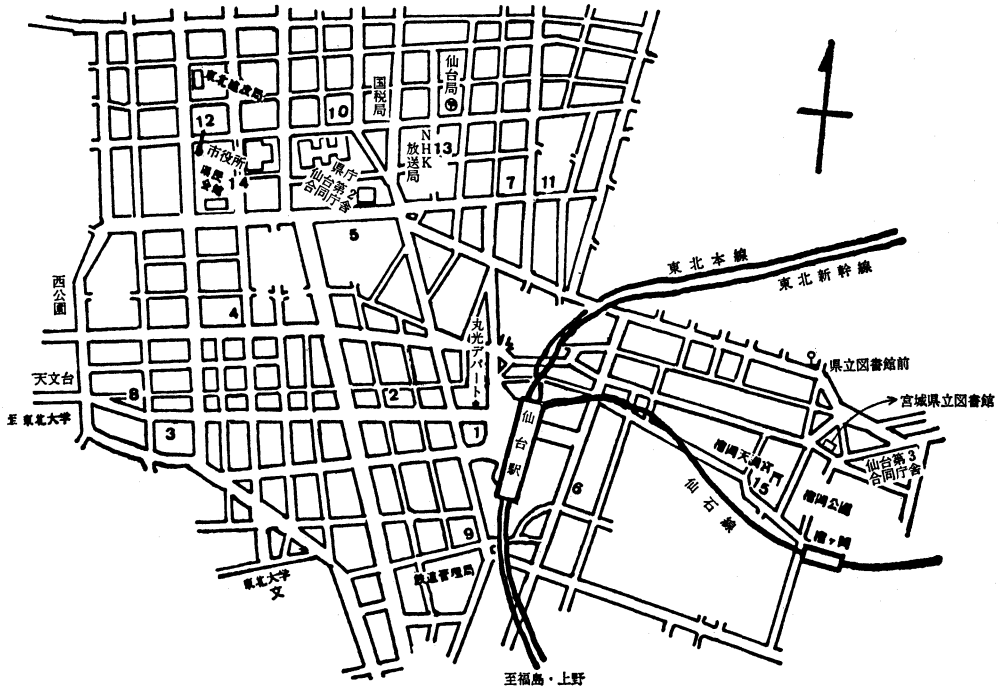
日本気象学会 昭和58年秋季大会

会期：昭和58年10月19日（水），20日（木），21日（金）
 会場：仙台管区気象台（宮城県仙台市五輪1丁目3番15号）
 宮城県立図書館（宮城県仙台市榴ヶ岡5番地）

目 次

会 場 案 内.....	411
大会行事予定表.....	412
研究発表内容一覧表.....	413
シンポジウム内容.....	413
研究発表題目.....	414~421

会場案内図



大会行事予定

1. 会場：仙台管区气象台 (TEL. 0222-91-8171)
 - 第1会場 (第3合同庁舎, 2階)
 - 第2会場 (第3合同庁舎, 4階)
 - 第3会場 (県立図書館, 3階)
 - 委員会・事務局
2. 会期：10月19日 (水), 20日 (木), 21日 (金)
3. 行事

行事		
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月19日 (水) 09:00~12:30 13:30~17:30 (ただし, 第3会場のみ 13:30~16:30)
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月20日 (木) 09:00~12:00
理事長あいさつ, 日本気象学会		
奨励金贈呈式	第一会場	13:00~13:30
シンポジウム		13:45~17:00
懇親会	第一会場	17:45~20:00
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	10月21日 (金) 09:00~12:30 13:30~17:30 (ただし, 第3会場のみ 13:30~16:30)

大会委員長 柳原一夫

昭和58年秋季大会

(): 講演番号, -- : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
10月18日 (水)	09:00~ 12:30	中層大気・波動 (101~117) —木田秀次—	応用気象 (201~211) —村山信彦—	放射 (301~318) —田中正之—
	13:30~ 17:30 (第3会 場のみ~ 16:30)	大循環 (118~135) —谷貝 勇—	測器 (212~218) —青柳二郎— 接地境界層 I (219~229) —内藤玄—	大気電気・大気化学 (319~331) —広田道夫—
10月20日 (木)	09:00~ 12:00	熱帯気象 (136~150) —新田 勲—	接地境界層 II (230~242) —安田延寿—	エーロゾル (332~346) —角皆静男—
	13:00~ 13:30 13:45~ 17:00	理事長あいさつ, 日本気象学 会奨励金贈呈式 シンポジウム		
10月21日 (金)	09:00~ 12:30	気候 (151~167) —岩嶋樹也—	エクマン境界層 (243~259) —森 洋介—	雲物理 I (347~355) —黒田登志雄— 雲物理 II (356~361) —八木鶴平—
	13:30~ 17:30 (第3会 場のみ~ 16:30)	総観・中小規模現象 (168~185) —柴山 武—	局地循環 (260~272) —木村富士男— 大気汚染 (273~277) —千秋鋭夫—	雲物理 II (362~373) —松尾敬世—

注) 大会参加費 会員 500 円, 学生会員 300 円, 一般 1,000 円

シンポジウム「東北地方の冷夏について」

1. 日時 大会第2日(10月20日)
2. 会場 第1会場(仙台第3合同庁舎内)
3. 司会 田中正之(東北大・理学部)
4. 話題提供者

1. 総観場でみた冷夏について

二宮洸三(仙台管区)

コメンター 山元龍三郎(京大・理学部)

2. やませについて

昆 幸雄(青森地台)

コメンター 荒川正一(気象庁・海洋気象部)

3. 局地地形における冷却機構について

近藤純正(東北大・理学部)

コメンター 木村竜治(東大・海洋研)

5. 総合討論

講演発表者へのお知らせ

1. 講演時間は, 質疑を含めて12分です。次のスケジュールを目標にしてください。
第1鈴 8分後 講演のまとめに入る。
第2鈴 10分後 講演終了
第3鈴 12分後 質疑終了
2. 持ち時間(12分)を超過した時は中止していただくことがあります。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

研究発表題目

大会第1日(10月19日)(09時00分~12時30分)

第1会場 中層大気・波動

座長 木田 秀次

101. 時岡達志・谷貝 勇(気研・予報):MRI・GCM-I(12層)に励起された大気潮汐
102. 谷貝 勇・時岡達志(気研・予報):全球12層大気大循環モデルによる1月のシミュレーション(Ⅲ)——移動性じょう乱のスペクトル解析——
103. 三角幸夫(京大・理):惑星間空間磁場境界に対する地球大気の応答——下部大気の力学過程——
104. 廣岡俊彦・廣田 勇(京大・理):上部成層圏自由振動モードロスビー波の全球解析(Ⅲ)——長周期モードの解析——
105. 塩谷雅人・廣田 勇(京大・理):成層圏循環に関する南北両半球の比較—Eliassen Palmflux による diagnostics—
106. 川平浩二(京大・理):プラネタリー波によるオゾン変動の研究(V)—突然昇温時のオゾンの振舞い—
107. 長谷部文雄(京大・理):オゾン全量の経年変動と下部成層圏の大循環
108. 山中大学・秋山弘光・狛 豊・岡部選司・西村純(宇宙研), J. Soegijo・T.S. Tatang(LAPAN, Indonesia):QBO 東西風交替期の赤道成層圏風系の鉛直微細構造
109. 木田秀次(気研・予報):中層大気的一般風形成に貢献する内部重力波の数値実験(2)
110. 田中 浩(名大・水圏研)・山中大学(宇宙研):メソスケール山岳波の崩壊で惹起される下部成層圏弱風層
111. 山中大学(宇宙研), 田中 浩(名大・水圏研):中部成層圏における中小規模運動の渦拡散特性
112. 三村和男(京大・理):Exact Spherical Treatment of Wave-Mean Interaction for the Atmospheric Waves with full scale range
113. 三村和男(京大・理):Over-Transmission and Over-Reflexion of Rossby Waves
114. 渡部文雄(東京管区):超長波上での傾圧不安定
115. 余田成男(京大・理):準地衡低次モデルにおける定常解および非定常解について

116. 玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理):回転水槽中に励起される停滞性傾圧不安定波
117. 文字信貴・光田 寧(京大・防災研):対流渦の発生限界と粗度の効果

第2会場 応用気象

座長 村山 信彦

201. 石井和夫・大町 徹(九州芸工大・芸工), 片山忠久・堤純一郎(九大・工):中層集合住宅の通風と建物近傍の風の特性に関する実測(1)外部風の特性
202. 堤純一郎・片山忠久(九大・工), 石井昭夫・大町 徹(九州芸工大・芸工):中層集合住宅の通風と建物近傍の風の特性に関する実測(2)室内流速とその温熱効果
203. 小元敬男(大阪府大・農):植物気候学的立場から見た都市の昇温
204. 中川慎治(筑波大・水理実験センター):蒸発散の概念とその適用条件について(I)—可能蒸発散量と実蒸発散量の関係—
205. 中川慎治(筑波大・水理実験センター):蒸発散の概念とその適用条件について(II)—平衡蒸発量・可能蒸発量と実蒸発散量の関係—
206. 水野 量・市川政治(仙台管区):ステップワイズ回帰分析による月平均気温の推定について
207. 米谷恒春・森脇 寛(国立防災センター):台風第8210号と直後の低気圧による土砂災害における避難の事例
208. 丸山健人(気研・予報):ラジオ高層天気図の普及について
209. 平松 親(北大・環境研):「天気図の読み方」の独自の学習法について—三年間にわたる高校での指導記録—
210. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工), 志賀正信:相関係数から出る位相差と卓越周期成分との対応
211. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工), 志賀正信:500 mb 中層雲域における地震前の異変

第3会場 放射

座長 田中正之

301. 中島映至(東北大・理):放射伝達方程式の行列

- 表現についての考察
302. 廣野幹彦(新潟大・工): ランダム・モデルによるスペクトル吸収
303. 田中正之・中澤高清・深堀正志(東北大・理): 高圧下に於ける二酸化炭素の吸収特性Ⅱ
304. 山内 恭(国立極地研): 南極みずほ基地における逆転層と長波長放射収支
305. 嘉納宗靖・鈴木 正・八尾 孝(気研・高物): 赤外放射フラックスの高度分布の測定
306. 高村民雄(防衛大・数物教室), 中島映至(東北大・理): エアロゾルの複素屈折率の推定と粒径分布—ライブラリー法を用いて—
307. 荒生公雄(長崎大・教育), 石坂 隆(名大・水圏研): 黄砂の濃度と直達日射情報に関する考察(Ⅱ)
308. 村山信彦・小林隆久・佐藤 功(気研・応用): 粒径分布と日射観測によるエアロゾル吸収率の評価
309. 高村民雄(防大), 田中正之・中島映至(東北大・理), 山野 牧(日科技研): 関東地域におけるエアロゾルの高度による違い
310. 宮内正厚(気研・高物): 層状雲の散乱透過光の分光測定—波長分布特性—
311. 竹内義明(京大・理・気候変動実験施設): 積雲の形状と太陽放射特性—2次元モデルとそのLandsat データへの応用—
312. 田中正之・石川重年・中島映至(東北大・理): 気象衛星「ひまわり」のデータによる雲の放射特性の研究
313. 久保田効・今井博子(気研・予報), 高橋大知(衛星センター): GMS による狭帯輝度観測から全放射束を見積る試み
314. 久保田効(気研・予報), 高橋大知(衛星センター): GMS 観測による放射束の解析
315. 西村 浩・中田琢志(気象協会・北海道本部), 斉藤博英(北海道東海大): 傾斜面日射量の測定
316. 菊地原英和・篠木誓一・吉田作松(日本気象協会・中央本部): 日別全天日射量度数分布の推定と全国マップ作成
317. 佐藤隆夫(長崎大): 大気中の第三次散乱光の計算結果(11)
318. 佐藤隆夫(長崎大): 大気中の第三次散乱光の計算結果(12)

大会第1日(10月19日) 13時30分～17時30分

第1会場 大気大循環

座長 谷 貝 勇

118. 藤村郁雄: 日本付近を東進する低気圧系列の南北両半球対称性
119. 岩崎俊樹(気象庁・電計), 金戸 進(札幌管区): 圏界面構造の季節変化に関する統計的解析
120. 山崎信雄(仙台管区): 1980年夏のプロッキングのエネルギー収支
121. 佐藤康雄・井上長俊(気大): 1979年2月の高緯度プロッキング現象のエリアセン・パームフラックスを用いた解析
122. 伊藤久徳(和歌山大・教育): 冬季の対流圏「定常」プラネタリー波の維持機構
123. 山崎孝治(気研・予報), C.R. Mechoso (UCLA), D.L. Hartmann (ワシントン大学): 南半球における波と平均場との相互作用の解析—1979年冬—
124. 増田耕一(東大・理): FGGE3B データによる非断熱加熱率の見積り
125. 戸松喜一(気研・予報): FGGE データによる1979年1月の観測的研究(続)
126. 増田善信(気研・予報): 気圧変化傾向(app)と実測風から求めた鉛直流の4次元資料同化への利用
127. 中村 一(東大・理): 数値実験データの収支解析に生じる誤差の問題
128. 吉崎正憲(東大・海洋研): 三次元非弾性系における運動方程式の差分スキーム
129. 重久陽亮・佐藤信夫(気象庁・電計): 8L-NHMにおける超長波じょう乱の予想精度(冬期)
130. 久保田効・時岡達志・吉田泰治(気研・予報): 気研大気大循環モデルによる1カ月予測の試み
131. 岩嶋樹也・山元龍三郎(京大・理・気候変動実験施設): 時間空間スペクトル大気大循環モデル(Ⅱ)
132. 千葉 長・木田秀次(気研), 田中康夫・河原幹雄・上野達男(気象庁・長期): スペクトルモデルによる季節変化再現テスト
133. 時岡達志・野田 彰(気研・予報): 冬の大気大循環に対するヒマラヤ山塊の影響(数値実験)
134. 松田佳久(東京学芸大): 金星大気四日循環と傾圧不安定論(2)

135. 森山 茂 (日大・生産工): 熱潮汐波の伝播と火星砂嵐時の極夜域の異常昇温

第2会場 測 器

座長 青 柳 二 郎

212. 山下嘉弘 (気研・衛星): 半導体センサーによる微気圧計の試作
213. 塚本 修・光田 寧 (京大・防災研): Lyman- α 湿度計の吸収特性の温度依存性について
214. 花房龍男・藤谷徳之助 (気研・物理), 小堀泰宏 吉田政史 (海上電機 K.K.): 強風型3次元超音波風速計による風の測定について
215. 榊原 均 (気研・予報), 国谷紀夫 (明星電気): ドロップゾンデの実用化
216. 青柳二郎・松浦和夫 (気研・衛星): 降水エコーの振幅分布特性について
217. 井上豊志郎 (気研・台風), 青木忠生 (衛星センター): 画像データの分散値による晴天放射の決定について
218. 大西外史 (防衛大): 線形統計予測実験について

接地境界層 I

座長 内 藤 玄 一

219. 大平貴裕 (北大・環境), 播磨屋敏生・谷口 恭 (北大・理): 積雪期のヒートアイランド
220. 高原浩志・樋口敬二 (名大・水圏研): 雪面上を吹走する気塊の熱的変質に関する数値実験
221. 小林俊一・海老沼孝郎・前野紀一 (北大・低温研): 吹雪の温度依存に関する風洞実験 I
222. 石田 完・前野純一 (北大・低温研): 雪面境界層の静圧分布の測定
223. 海老沼孝郎・前野紀一 (北大・低温研): 吹雪粒子の空間濃度と速度の分布
224. 西村 寛・前野紀一 (北大・低温研): 吹雪時における雪面付近の雪粒子の粒径について
225. 金田安弘 (気象協会・北海道), 前野紀一・石田完 (北大・低温研): ふぶきによる乱流熱拡散の増大効果について
226. 安枝伸子 (石川島播磨重工業 ㈱ 技術研究所): トレーサーガス流出速度が拡散に及ぼす影響
227. 加藤真規子 (気研・物理): 大型風洞による拡散

実験について (II)

228. 北林興二・近藤裕昭・吉門 洋 (公資研): 山のまわりの気流の風洞実験
229. 村山信彦・小出 孝・栗田 進 (気研・応用): 黄砂舞上がりの風洞実験—第1報

第3会場 大気電気・大気化学

座長 広 田 道 夫

319. 吉弘雅士 (北大・環境), 谷口 恭・菊地勝弘 (北大・理): 海霧の大気電気, 雲物理的性質について
320. 孫野長治 (北大・環境), 遠藤辰雄 (北大・低温研), 谷口 恭 (北大・理): 降水電荷と電場の正相関関係の発生について, その1
321. 孫野長治 (北大・環境), 遠藤辰雄 (北大・低温研), 谷口 恭 (北大・理): 降水電荷と電場の正相関関係の発生について, その2
322. 忠鉢 繁 (気研): 昭和基地におけるオゾン特別観測
323. 村松久史・広田道夫・佐々木徹 (気研・高物): 圏界面ギャップ付近のオゾン観測
324. 佐々木徹・村松久史 (気研・高物): 成層圏微量成分2次元モデル (II)
225. 高木増美・近藤 豊・岩田 晃・森田恭弘 (名大・空電研): 自由対流圏中の NO_x の航空機観測
326. 土器屋由紀子・広瀬勝己 (気研・地球化学): 筑波の大気浮遊塵の化学組成 (その2)
327. 伏見克彦 (気研・地球化学): 北太平洋西部海域における海上大気および表面海水中の二酸化炭素分圧
328. 杉村行勇 (気研・地球化学): 世界の降水の溶存主要化学成分の平均組成
329. 葛城幸雄 (気研・地球化学): ^{90}Sr 降下量の季節変化について
330. 井上久幸・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波における地上付近の大気中二酸化炭素の安定同位体比 (4)
331. 小林愛樹智・林田佐智子・岡田菊夫 (名大・水圏研): 黄砂による偏光解消度の測定—El Chichón 噴火直後の成層圏と比較して

大会第2日(10月20日)09時00分~12時00分

第1会場 熱帯気象

座長 新田 勳

136. 村上勝人(気研・台風): モンスーンの季節内変動と大気大循環一帯状平均場にあられる変動一
137. 安成哲三(筑波大・地球科学系): 夏季モンスーンの長周期変動に対応した北半球高度場のテレコネクション
138. 田中 実(気象庁・電計): アジア地域における熱帯循環の年々の変動 I
139. 山形俊男(GFD Program, Princeton Univ., 九大・応用力学研), 林 良一(GFDL/NOAA, Princeton Univ.): 熱帯対流圏にあられる30~50日振動の簡単な診断モデル
140. 神本祐治(京大・防災研): 熱帯西・中部太平洋における降水量の経年変動
141. 篠田雅人(東大・地理): アフリカ大陸東岸における降水域の季節移動
142. 中込 縁・新田 勳(東大・理): 偏東風波動の世界的な特徴
143. 新田 勳(東大・理): アラビア海上空の東風中に見出された波動攪乱
144. 井沢龍夫(気研・台風): 低緯度風系と熱帯低気圧
145. 井沢龍夫(気研・台風): 夏期および冬期モンスーン降雨と熱帯じょう乱
146. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 赤道成層圏下部のじょう乱の周期分析: シンガポール (1N, 104E) 1967-1982
147. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): 赤道成層圏下部の準二年周期振動: 30年の経過(1953-1982)
148. 村松照男(気研・台風): 台風の多角形眼の構造
149. 山岬正紀(気研・台風): 対流雲群の短時間変動とメソ対流
150. 杉 正人(気象庁・電計): 北半球スペクトルモデルで予報された台風の解析

第2会場 接地境界層 II

座長 安田 延 寿

230. 山田信夫(日大・生産工): 二次モーメント方程式における圧力変動項のモデルと一つのケース・スタディー
231. 千葉 修・菊地時夫(高知大・理), 小林俊一(北

大・低温研): 臨界リチャードソン数付近の乱流特性

232. 西川 敦(東大・海洋研): Bulk-flux 計算の使われる気象要素の平均期間の依存性について—とくに月平均の海域別特性について—
233. 戸矢時義(気研・応用), 安田延壽(東北大・理): 裸地面からの蒸発—Lyman- α 湿度計の周波数特性—
234. 山下喜弘(気研・衛星): 接地逆転層内の内部波動の伝搬特性
235. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 局地風速と現実的複雑地表面の粗度
236. 近藤純正・川中敦子(東北大・理): 粗度の大きな地表面上の大気境界層の研究
237. 米谷俊彦・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について (17)
238. 横山長之・林 正康(公資研): 接地境界層中における拡散
239. 森 洋介(宮城教育大), 近藤純正(東北大・理): 山地の地表面冷却の式
240. 石川信敬・本山秀明・小林俊一・小鳥賢治(北大・低温研): 安定大気中の顕熱測定 II
241. 岩谷祥美・塩谷正雄(日大・生産工): 強風の乱れのパワースペクトル—MEM による解析—
242. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理), 李鐘範(筑波大): 乱流統計量の高度と安定度による変化(7)

第3会場 エアロゾル

座長 角 皆 静 男

332. 笹野泰弘・中根英昭(国立公害研): レーザーレーダーによるエアロゾルの体積消散係数鉛直分布の計測
333. 内野 修・関 匡平・徳永正憲・前田三男(九大・工), 高橋克己・田端 功・穂田 巖・岡田芳隆(気研): 紫外線ライダーによる成層圏エアロゾル層観測(II)—筑波におけるライダー観測とその比較—
334. 柴田 隆・藤原 昇・藤原玄夫・広野元和(九大・理): Nd: YAG Lidar 観測によるエルチチョン噴火雲の最近の状況
335. 川口貞男(国立極地研): エルチチョン噴火による南極昭和基地の日射量の変化

336. 小野 晃 (名大・水圏研): Ca 薄膜法による成層圏 sulfate 粒子の分子状態の直接測定 (MAP 航空機観測速報)
337. 鶴 求・山元理代 (九電・総合研), 大場良二 (三菱重工・長崎研): 海塩粒子付着の実測と解析
338. 池上三和子・金沢五寿雄・伊藤朋之 (気研): 日本付近におけるエアロゾルの水平分布の観測
339. 大喜多敏一 (国立公害研): 冬期の海洋上のガス, エアロゾルの挙動 (II)
340. 太田幸雄・大喜多敏一 (北大・工): 大気中の粒子状炭素濃度の測定 (II)
341. 太田幸雄・大喜多敏一 (北大・工): 札幌におけるエアロゾルの組成
342. 村上正隆 (北大・環), 菊地勝弘 (北大・理): 冬期旭岳周辺におけるエアロゾル観測一個々のエアロゾル粒子の元素組成
343. 倉田隆喜・鈴木利孝・角皆静男 (北大・水産): 長寿命ラドン娘核種による陸起源エアロゾルの平均滞留時間の見積もり
344. 桂川秀嗣 (東邦大・教養): 自然放射性エアロゾル測定のマイトロコンピュータによる自動化
345. 村野健太郎・水落元之・泉 克幸・福山 力・鶴野伊津志・若松伸司 (国立公害研), 五井邦宏 (埼玉県公害センター): 関東地方上空の硫黄化合物のガス-エアロゾル分布とエアロゾル中のイオンバランス
346. 児島 紘 (東理大・理工): 微粒子 (中イオン) の濃度変動に寄与する気象ファクターについて

大会第3日 (10月21日) 09時00分~12時30分

第1会場 気 候

座長 岩 嶋 樹 也

151. 星合 誠 (愛知学院大): 北半球平均地上気温の最近の変動
152. 田宮兵衛 (気研・予報): 北半球中高緯度の1月の平均 500 mb 高度の経年変動
153. 荒井 康 (気研・台風): 偏差図上の波の移動について
154. 大井正一 (家政大): 成層圏天気図の解析 (CI) 夏, 大雨と少雨
155. 那須田宏 (京大・理): GMS 画像データ利用による絹雲の赤外射出率の評価
156. 野本眞一・千葉 長・矢島栄三 (気研・予報): 統計年数および欠測値が年平均値に及ぼす影響
157. 千葉 長・野本眞一・矢島栄三 (気研・予報): 降水量の年変化型とその空間分布
158. 山田真澄 (厚岸潮見高)・佐藤典人 (法政大・文・地理): 朝鮮半島における降水量集中指数について
159. 栗原弘一 (気象庁・長期): 137°E 線に沿う7月海水温と中部日本の夏季の平均気温の関係について
160. 青木 孝 (気研・予報): 台風襲来数の年変化による日本の地域区分
161. 藤田敏夫 (気研・予報): アグン火山の大爆発と夏季の異常気候
162. 水野 量・二宮洸三 (仙台管区): 主成分分析に

よる日本の気温変動の考察

163. 山田知充 (北大・低温研): 北海道の豪雪
164. 小元敬男・鯉谷 憲 (大阪府大・農): 都市における相対湿度の変化について—蒸気圧効果と温度効果について—
165. 水越允治 (三重大・人文): 古日記の天気記録による古気候推定の試み (2) —とくに18世紀末から19世紀初めにかけての期間について—
166. 土屋 清 (千葉大), 小久保勝昭 (東松山市立松山中), 新井康平・石田 中 (宇宙開発事業団): 夏季における土地被覆と小規模気象
167. 土屋 清 (千葉大), 小久保勝昭 (東松山市立松山中), 新井康平・石田 中 (宇宙開発事業団): 冬季における土地被覆と小規模気象

第2会場 エクマン境界層

座長 森 洋 介

243. 本多庸浩・藤田敏夫 (気研・予報): 海上逆転層の動気候学的研究 (2)
244. 鈴木彌幸・戸矢時義・佐藤純次 (気研・応用): 夜間の接地逆転層の観測
245. 甲斐憲次 (筑波大・水理実験センター): 30 m 鉄塔で観測された気象要素の長周期変動
246. 石川裕彦 (日本原子力研): アメダスデータを用いた流跡線の計算一流跡線観測との比較—
247. 李鐘範 (筑波大・地球科学): 混合層のジャンプモデルの補正
248. 蒲生 稔 (公資研): 混合層の季節変化 (その8)

249. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之(公資研):飛行機による湿度および水蒸気輸送量の観測
250. 内藤玄一(国立防災センター), 村治能孝(アジア航測) 航空機による海洋上の大気境界層観測(II)
251. 安達隆史(日本気象協会), 川口貞男(国立極地研):みずほ基地におけるカタパ風の分類と平均
252. 井上治郎(京大・防災研):南極大陸内陸部における地表風の広域特性
253. 柴田清孝・大野木和敏(気大), 梶原靖司(長野地台):移流霧の数値モデル(I)
254. 沢井哲滋・白木正規(気研・予報), 浅野正二(気研・高物), 竹内衛夫(山形地台):移流霧のための鉛直1次元モデル(その1)—釧路地方における海霧の研究(VI)—
255. 近藤純正(東北大・理):何が4月27日の東北地方多地点一斉大規模山林火災をおこしたか
256. 近藤純正・桑形恒男(東北大・理):4月27日, 東北地方多地点一斉大規模山林火災時の強風の発生と変動
257. 安田延壽(東北大・理), 森洋介(宮城教育大):1983・4・27 仙台市北部大規模山林火災と局地風
258. 島貫 陸(東京学芸大):大気境界層の時間高度2次元データの解析(3)
259. 森 征洋(香川大・教育):変動する気圧場に対する大気境界層の応答

第3会場 雲物理 I

座長 黒田 登志雄

347. 山下 晃・太田典子・浅野浅春(大阪教育大):真空デシケーターを利用したチェンバー中で成長する氷の結晶
348. 佐藤 昇(北大・理), 上田 博(国立防災センター), 菊地勝弘(北大・理):ゴヘイ型雪結晶の発生について
349. 古川義純(北大・低温研):氷結晶表面における蒸発ステップの運動とその特徴
350. 奥山和彦(京大・防災研):雪結晶の成長にともなる成長速度の変化について
351. 黒田登志雄(北大・低温研):雪の結晶成長の律速過程, I. 理論
352. 黒田登志雄(北大・低温研), 権田武彦(東理大・理工):雪の結晶成長の律速過程, II. 実験との比較
353. 西村 寛・前野紀一(北大・低温研):南極みずほ基地で観測された吹雪時の雪粒子への凝結
354. 竹井 巖・前野紀一(北大・低温研):吹雪粒子の電荷の測定(I)
355. 梶川正弘(秋田大・教育):初期雪片の構成様式について(II)

雲物理 II

座長 八木 鶴平

356. 赤枝健治・武田喬男(名大・水圏研):NOAA-7の多波長データを用いた広域の雲の解析
357. 武田喬男・池山雅美(名大・水圏研):日本南方海上における30日雲量変動
358. 柳沢善次・石原正仁(気研・台風):海霧におけるレーダー反射と視程との関係—釧路地方における海霧の研究—
359. 上田 博・八木鶴平(国立防災センター):北海道釧路市における海霧の観測, V(視程と霧水量の関係からみた都市と郊外の霧の特性)
360. 石坂 隆・横山辰夫(名大・水圏研):降水雲のタイプと雨滴の成長過程
361. 播磨屋敏生(北大・理):霰形成機構の地域性(その3)

大会第3日(10月21日) 13時30分~17時30分

第1会場 総観・中小規模現象

座長 柴山 武

168. 山岸米二郎・古賀晴成・大野久雄・三浦信男(気象庁・電計), 二宮洗三(仙台管区):東北山林火災発生に関連した乾燥・高温・強風—観測事実と数値予報実験—
169. 山川 弘・岡村博文(気研・台風):東日本における台風接近時の東風下の降水(II)
170. 杉浦 茂(前橋地台):台風8218に伴う大雨について
171. 佐藤喜代志・渡辺圭章・斎藤 寛・菅原吉夫・千葉孝史・渡辺富男・相沢 功・内山明博(仙台管区・レーダー):対流性エコーの発生・発達と地上風・気温の関係について
172. 相原正彦・岡村博文(気研・台風):メソスケールモデルによる地形性じょう乱

173. 平沢正信 (気象庁・予報): 降雪予報のための寒
候期降水予測システム (Ⅱ)
174. 遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理), 今
久 (千葉大・園芸): 札幌市内の短時間降積雪予
測実験
175. 高藪 出 (東大・海洋研): 温帯低気圧の構造・
発達の数値シミュレーション
176. 猪川元興 (気研・予報): 積雲対流の成層状態へ
の依存性
177. 猪川元興 (気研・予報): 多変量統計的客観解析
と変分客観解析との理論的關係
178. 西川 敦 (東大・海洋研): 可変格子有限要素法
によるデータ解析—気象要素の月平均場への適
用—
179. 加藤内蔵進 (東大・海洋研): 中国大陸における
梅雨前線帯の季節的変動 (その1) 5~7月の大
気中の熱・水蒸気収支
180. 加藤内蔵進 (東大・海洋研): 中国大陸における
梅雨前線帯の季節的動 (その2) 下層温度場急変
期 (5月下旬) における熱のバランス
181. 秋山孝子 (気研・予報): 梅雨前線の全体像とそ
の降水特性
182. 二宮洸三 (仙台管区): 梅雨前線帯と北半球の前
線帯 (2)
183. 木本昌秀・牧 広篤 (気象庁・予報): 対流圏の
長波のふるまいに関する観測的研究 (Ⅰ) 数値フ
ィルタを用いた短波擾乱による Vorticity Forcing
の解析
184. 藤井盛澄 (大阪電通大): 冬季, 寒気の南下に伴
い台湾東方に発生するジェットについて
185. 二宮洸三・水野 量 (仙台管区): 東北冷夏の総
観の様相 (1)

第2会場 局地循環

座長 木村富士男

260. 吉川友章 (気研・応用): ドップラーソーダによ
る気流・乱流の鉛直分布の測定 (Ⅱ)
261. 渡辺 明 (福島大・教育): 猪苗代湖北部の風と
気温の変動
262. 平松 親 (北大・環境研), 孫野長治・菊地勝弘
(北大・理): 札幌市の大気環境Ⅶ—夏季の海風時
における下部大気の立体構造の観測—
263. 佐藤 功・小出 孝 (気研・応用): 瀬戸内特別
観測期間中の局地風の特徴

264. 水間満郎 (京大・原子炉): 泉南地域における海
陸風の観測 (Ⅲ)—長期観測資料の主成分分析—
265. 石島 英 (琉大): 台湾島地形による台風場の変
形—北方西進の場合
266. 石島 英 (琉大): 台湾島地形による台風場の変
形—南方西進の場合
267. 小出 孝 (気研・応用): 山のまわりの流れの数
値実験
268. 野中善政・角田三郎 (宮崎大・教育): 二方程式
モデルによる山谷風の解析 (Ⅰ)
269. 村山信彦・木村富士男・小崎航一 (気研・応用),
荒川正一 (気象庁・海気): 局地循環数値モデル
の東北地方のフェーンへの応用 (1)
270. 村山信彦・木村富士男 (気研・応用), 荒川正一
(気象庁・海気), 竹内秀子 (日情サ): 局地循環
シミュレーションの動画について
271. 遠峰菊郎・阿部成雄 (防衛大): 日高山脈周辺に
形成される深い局所低気圧に対する数値実験, 及
び統計結果との比較
272. 広尾 純 (関東学院大), 伊藤政志・宇田川満 (東
京都公害研究所), 塩沢清茂 (早大・理工): 角度
変量の統計による上層風向データの解析

大気汚染

座長 千秋鋭夫

273. 鶴田治雄 (横浜市・公害研): 航空機と人工衛星
の観測による海風前線の立体構造と汚染物質の立
体分布
274. 藤田慎一・中山稔夫・矢田部照夫・千秋鋭夫 (電
力中研): オキシダント濃度に及ぼすバックグラ
ウンドオゾンの影響
275. 市川陽一・四方 浩・中井真行 (勸電力中研):
地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モ
デル (3)—ポテンシャル流モデルによる計算結
果と実測値の比較—
276. 大場良二 (三菱重工), 鶴 求・山元理代 (九州
電力): 境界要素法による山越え気流の数値シミ
ュレーション
277. 石崎健二 (北大・工学部): 煙塊のゆらぎ運動の
シミュレーションと拡散への応用

第3会場 雲物理 Ⅱ

座長 松尾敬世

362. 遠藤辰雄・若濱五郎・藤吉康志・山田知充・入川
真理・小西啓之 (北大・低温研): 降雪雲のゾン

- デとレーダによる同時観測(その2)
363. 入川真理・若浜五郎・遠藤辰雄・山田知充(北大・低温研):降雪雲における雪粒子の鉛直分布
364. 藤吉康志・入川真理・小西啓之(北大・低温研):帯状雲からの雪片の構成要素
365. 小西啓之・若浜五郎・遠藤辰雄・藤吉康志(北大・低温研):降雪粒子の粒径と落下速度の時間変化
366. 若浜五郎・遠藤辰雄・山田知充・藤吉康志・小西啓之・入川真理(北大・低温研):石狩平野における大雪の研究
367. 東根 聡・村上正隆・吉弘雅士(北大・環境), 菊地勝弘・谷口 恭・佐藤 昇・遊馬芳雄・真木雅之(北大・理):石狩湾上の降雪雲のレーダー観測 (SHAROP-part 1)
368. 八木鶴平・上田 博(国立防災センター):関東平野における降雪粒子の観測
369. 和田 誠(極地研), 武田喬男(名大・水圏研):昭和基地で観測された南極の雲の性質について(II)
370. 松尾敬世(気研・物理), 榊原 均(気研・予報), 青柳二郎・松浦和夫(気研・衛星):地雨性降水内の気温の鉛直分布
371. 武田喬男・堀口光章・赤枝健治(名大・水圏研):上層雲および中層雲のライダーとミリ波レーダによる観測
372. 椎野純一(気研・台風):積雲における降水発生の微物理学的条件について
373. 徳岡敦子・飯田 肇・樋口敬二・渡辺興亜(名大・水圏研):北陸地方の降雪の酸素同位体組成の変動と降水過程